ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.									
シートNO.									

ボーリング名	B-1(沢右岸袖部)	調査位置				北　緯	36 ° 50 ’ 57.4600 ”
発 注 機 関	栃木県　大田原土木事務所		調査期間	2008-07-28 ～ 2008-07-30		東　経	140 ° 11 ’ 52.6000 ”
調 査 業 者 名		主任技師		現　場 代 理 人	コ　ア 鑑 定 者	ボーリング責任者	
孔 口 標 高	313.92 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 40.00 °
総 掘 進 長	5.00 m	使用機種	試 錐 機		ハンマー落下用具		
			エンジン		ポ ン プ		

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
	313.12	0.80	0.80		表土 (SF)	暗褐灰	中ぐらい		非常に軟質な礫混りシルトから成る。礫はφ10～30mmの角礫を主体に最大φ50mm程の岩片を認める。		07/28 1.00
1					砂礫 (GS)	暗茶灰	密な		φ10～50mmの角礫(頁岩片)を主体に局所でコア長3～4cm(推定φ100mm程)の岩塊を点在する。マトリックスは細～中砂分とシルト分でやや緩く埋められる。全体にシルト分の優勢箇所が多く見られる。		
2							非常に密な				
3	310.92	2.20	3.00		頁岩 (Sh)	暗灰			上部40cm間は細かい層理の多発により、角礫状コアを主体とするが、以深は10～20cmの棒状コアで採取される。局所で斜状亀裂を認めるが、開口性のものは無く、密着性に優れている。風化・変質は亀裂面に沿って見られる程度で、母岩自体は概ね新鮮である。ハンマー打撃による硬軟判定では「金属音を発する」硬度にある。コア採取率=100%。RQD=10～59%。最大コア長=23cm。岩盤等級区分=CM級。		
4											
5	308.92	2.00	5.00								

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	10	8	11	29／30	29
1.45					
2.15	11	12	13	36／30	36
2.45	50／0			50／0	>50
3.00					
3.00	50／0			50／0	>50
4.00					
4.00	50／0			50／0	>50
5.00					
5.00					

原位置試験

深度 (m)	試験名および結果

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
				07/28
				07/29
				07/30